

第 10 分科会

モチベーションクライシスと向き合う

※2014 年度 FD フォーラムにおいて、同一テーマで分科会を実施。

今回、内容を更新し 5 年ぶりに開催。

コーディネーター：三好 明夫 氏（京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授）

報告者：永野 典詞 氏（九州ルーテル学院大学 人文学部 教授）

眞砂 照美 氏（佛教大学 社会福祉学部 教授）

小原 教孝 氏（学校法人平成医療学園 常任理事(大学担当理事) /

宝塚医療大学 統括長・保健医療学部 教授）

分科会概要：

近年は入学後にすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も少なくな
い。学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下の検証が必要である。多く
の大学ではこれら学生への抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実
施されていると思われるが、効果が上がっていれば具体的な取り組みの工夫について共有
することが必要であり、課題があるとすれば課題解決に必要な方策はどのようなものが考
えられるのかということや大学が事例を持ち寄り確かめ合う必要があるのではないかと考
える。

モチベーションクライシス(大学生の学習に対する意識の危機的な低下)に向き合い、学
生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要であろう。今
回は、大学全体(教職員の連携)としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携
支援の必要についても考えていく。

例えば、初年度教育の充実として担任制度やそれに基づく基礎ゼミナールの編成、カリキ
ュラム(学生たちの自主的な学修の学びも含めたもの)改革や再編成、それによるカリキュ
ラムマップの作成や共通教育科目の充実も必要であろう。

大学教育においては、学生たちの目標とすべき人材像を明示し、学位授与方針(ディプロ
マ・ポリシー)、教育課程の編成および実施の方針(カリキュラムポリシー)を定めている。
さらにこれらの方針のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるた
めに、全学および各学科において入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を設定し
ている。学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)も重要であろう。学生
の学びの充実のために、大学間連携、地域連携・地域貢献、産学協働などのプログラムも用
意されている。

だが、こうした対応だけでモチベーションクライシスな学生を支援することが可能なの
だろうか。またダイバーシティの推進において入学する様々な状況の学生を守ることが可
能なのだろうか。どのようにして「やる気」や「勇気」また「元気」を回復させて学ぶこと
に意欲を持ち、退学傾向に向かわないよう支援していくことができるのだろうか。